

学校ダイアリー



【沿革】 1981年(昭和56年)に小郡小から分離し、13学級、児童475人で開校した。学校の特徴は、開校当時の蜂の巣型(六角形)の教室。「はちの巣型のまどいです」と校歌にも登場する。山口市小郡みらい町。

こんな学校

【校区】 山口市南部(旧小郡町)に位置する。校区内にある山口学芸大との交流が盛んで、学芸大生が月に数回上郷小を訪れて昼休みに一緒に遊び、掃除の指導をしている。5月に行われる運動

会にも補助で参加する。また、校区の北東にある県立山口農業高を児童が訪れ、豚や牛と触れ合ったり、稲刈り体験をしたりすることも。団地が多く、今後も児童数の増加が見込まれている。



贈る言葉

ピアノスト
脇淵陽子さん 40
1988年卒
できて間もない頃に通っていたので、珍しい蜂の巣型の校舎と、新しい匂いがうれしかったのをよく覚えています。
6年生の長女と3年生の次女

多くの大人と話し
憧れる人見つけて



が吹奏楽部で、それぞれフルトとクラリネットをしています。私も吹奏楽部に所属していました。ピアノを習っていましたが、違う楽器がやってみたいくて、フルトに憧れてい

たんですが、前歯が大きいからという理由でクラリネットに。難しい楽器で、なかなか音が出なかったことを覚えています。憧れを持つのが難しい時代ですが、多くの大人と話して「あなりたい」と憧れる人を見つけてもらえたらなと思います。
(山口市小郡新町)

山口市立上郷小学校 (舛谷晃校長、児童561人)

吹奏楽部 新譜の練習集中



練習に励む児童たち

夏休みの音楽室に、クラリネットやホルンなどの音色が響く。演奏しているのは上郷小の吹奏楽部。部員たちは、真剣な表情でもらったばかりの新譜の譜読みをしていた。
(清島愛)

24日午後。音楽室には約30人の部員の姿があった。部の休みが明けて最初の練習だったこの日、新譜がもたらえるとあって、部員の顔は期待に満ちていた。
原田正司教諭(49)が配ったのは、大河ドラマ「花燃ゆ」のメインテーマ。「知ってる」と笑みを見せる子もいれば、「難しそう」とつぶやく子も。
早速3分間譜読みをして、それぞれ音を出す練習に取りかかった。その後、全体で合わせるが、なかなか音がそろわない。原田教諭は「どんな曲でもちゃんと吹けるのが大事。たまたま中国大会に行けなかったんじゃないよ」と指摘した。
同部は、今月9日に行われた全日本吹奏楽コンクールの県大会で金賞を受賞したものの、中国大会への出場を逃した。指摘を受け、部員たちは一層集中して譜読みと音出しに取り組んでいた。



子どもたちの手伝いをする福田さん(中央)

児童の家造り
農高生手伝う

上郷小校区内にある県立山口農業高は、同小を始め、保育園や高齢者グループなど、地域の人々と広く交流している。7月上旬には、

部長の成安舞蔵さん(11)は「金賞を取れたのはうれしかったけど、中国大会に行けなかったのは残念」と話していた。

振り返り、「新譜はかっこいい曲。担当のサクソパートをちゃんと吹けるようがんばる」と話していた。

旧小郡町の三つの小学校が小郡体育館で行った「棟上げ式」を手伝った。
約60人の児童は6班に分かれ、小さな家造りに挑戦。大工に習いながら材木を組み上げ、くぎを打った。8人の農高生は、手順が分からなくなった子どもにも木を組み順番を教えたり、くぎを打つ際に木を押さえたりしていた。

3年の福田琴美さん(17)は「高校生活では子どもたちと触れ合うことがないので、活動を通して自分の経験値も上がっていると思う」と話した。上郷小6年の巻折李さん(11)は「高校生は大人みたいでかっこいいし、すぐ何でも答えてくれる」と、憧れのまなざしを向けていた。

◇次回は周南市立大河内小学校

このページに掲載した写真を実費でお分
けします(提供写真と「贈る言葉」の写真
は除く)。問い合わせは0922715555か、最寄りの販売店へ。